

注意!

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。
■文中で旧 URL (<http://www.nougyou.kitakami.iwate.jp/agri/>) を記載している場合、新 URL (<http://i-agri.net>) に読み替えてください。

平成15年 1月

病害虫防除技術情報 NO.14-5

岩手県病害虫防除所

天敵等による夏秋トマトにおけるオンシツコナジラミ防除の現地実証事例

コナジラミの漸増期となる7月前半までは、ハウス開口部に設置した防虫ネットにより害虫密度の抑制が可能であった。

天敵(ツヤコバチ製剤)の導入時期は、黄色粘着板トラップ(商品名:ホリバー 写真1)への成虫の誘殺数=10頭/週以上が目安とされている(岩手県農業研究センター平成11年度研究成果)。本実証事例でもコナジラミの誘殺数が目安に達しない時点での早めの放飼は効果的とはいえず、誘殺数が多くなる7月頃の放飼が有効であった。

少発時は、天敵のみで防除が可能であり、多発時は天敵に影響の少ない薬剤との併用により十分な防除効果が得られた。

実証内容

1 実証場所:平泉町夏秋トマト栽培農家ハウス

2 実証区および対照区の耕種概要

実証区:3月19日(2000年)4月7日(2001年)定植、1850本/10a

6月中旬~12月上旬収穫、ハウス開口部に防虫ネット(1mm目)設置

対照区:土耕栽培、4月18~20日(2000年、2001年)定植、2260本/10a、

6月中旬~10月上旬収穫

品種は両区ともに「桃太郎8」

3 天敵製剤の処理方法

製剤名:ツヤコバチEF(シンジェンタ ジャパン社製)

処理量:32株あたり1カードをトマトの生長点から40~50cm下の着果部位につり下げ、ハウス全体に均一に設置(写真2)

処理時期

2000年:5月25日から1週間毎に4回放飼 } 計8回

8月24日から1週間毎に4回放飼

2001年:7月30日から1週間毎に4回放飼



写真1 ホリバー



写真2 ツヤコバチ剤

実証結果

1 2000年(コナジラミ少発年)の場合

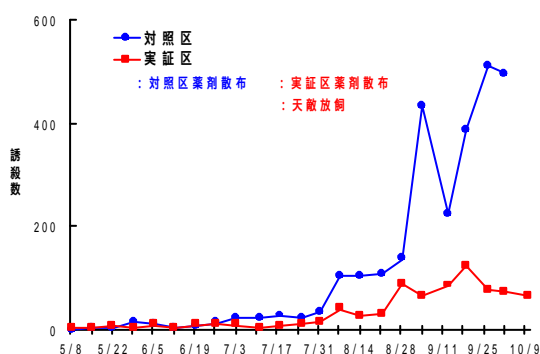


図1 ホリバーにおけるコナジラミ成虫の誘殺数

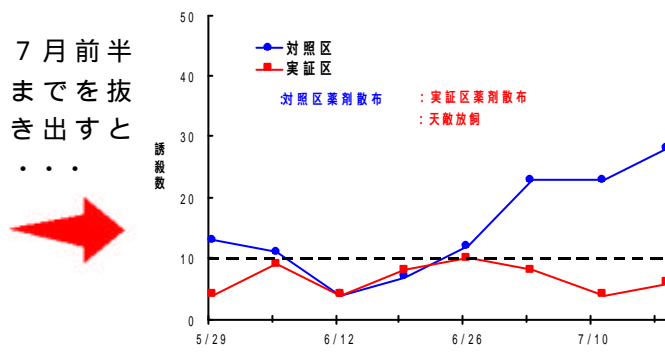


図2 ホリバーにおける7月前半までのコナジラミ誘殺数

コナジラミの初誘殺は5月に確認された。導入の目安には達していない段階(5頭/週)で天敵を放飼したところ、天敵の定着は確認できなかった(図1, 3)

7月前半までは、対照区でのみ誘殺数が増加し、ハウス開口部に設置した防虫ネットにより害虫侵入阻止効果が認められた(図2)

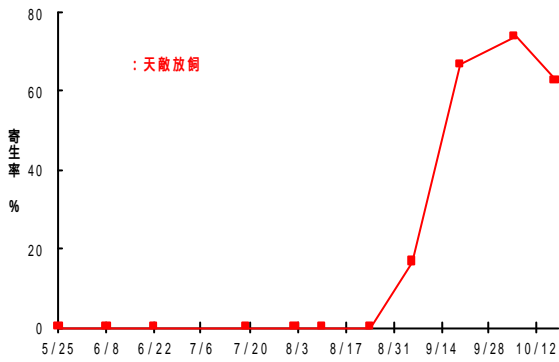


図3 ツヤコバチの寄生率の推移

8月以降誘殺数が増加し、再度天敵を放飼した結果、天敵の定着も確認され(約70~80%)、実証区における誘殺数および葉裏の寄生数は対照区より低く推移した。

対照区では、すす果の発生割合が3~6%で推移したが、実証区では確認されなかった。

2 2001年(コナジラミ多発年)の場合

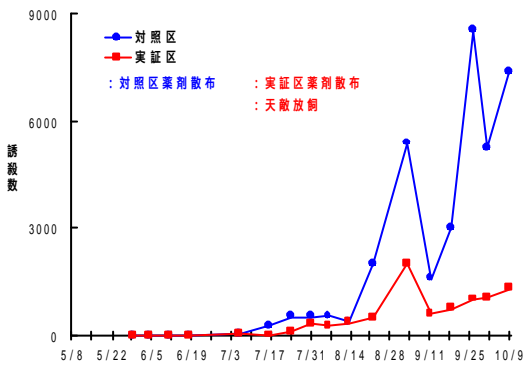


図4 ホリバーにおけるコナジラミ成虫誘殺数

7月前半までを抜き出すと...

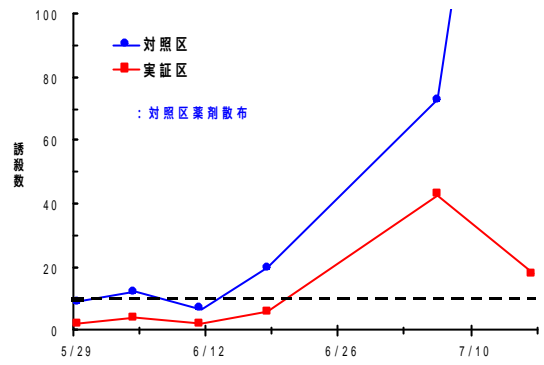


図5 ホリバーにおける7月前半までのコナジラミ誘殺数

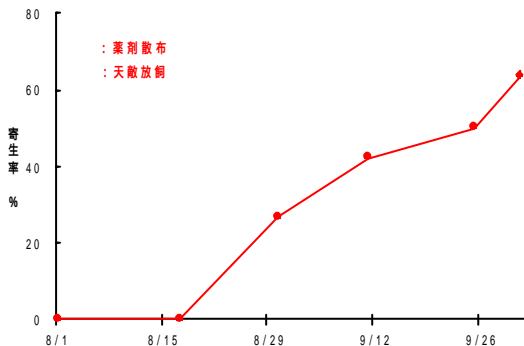


図6 ツヤコバチの寄生率の推移

7月前半までは2000年とほぼ同様の傾向を示し、防虫ネットによる害虫侵入阻止効果が認められた(図4, 5)。

天敵導入の目安に基づき、7月末に天敵を放飼したものの、誘殺数の急激な増加がみられたため、天敵に影響の少ない薬剤(ピメトロジン水和剤)を散布した。天敵の定着には影響がみられず(図6)、実証区における誘殺数および寄生数は対照区より低く推移した(図4)。

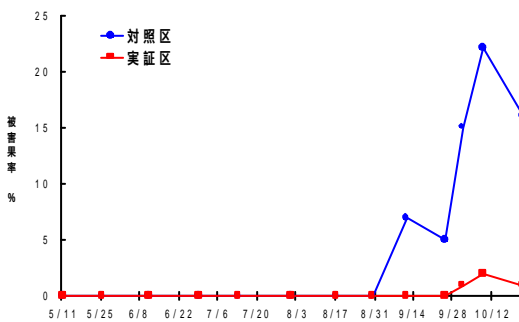


図7 すず果の発生状況



写真3 すず果

対照区では、すす果の割合が20%前後に達したが、実証区ではすす果の発生は軽微だった。